

木オだよソ

社会福祉法人 東香会

しぜんの国保育園 small village

Apr. 2023



法人理念

いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 永続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

4月主題 春のひかり まぶしい出会い

新年度がはじまりました、改めてみなさんどうぞよろしくお願ひします。しぜんの国では、4月5月を「ゆらゆら期」と捉えています。大人も子どもも少し緊張気味。その気持ちを型にはめるのではなくて、おおらかにかまえて子どもたちと暮らしを共にしていきたいと思ひます。

心をゆるめて、じっくりゆっくり歩いていきましょう。この時期、子どもたちも少し疲れて帰ってくることもあるかと思ひます。ぜひご家庭での様子もお聞かせくださいね。

今日のごはんは「カレイの照り焼き」と「ひじき煮」、そして白いごはんとお味噌汁でした。ほっとする和食です。一緒に食べた、つばき組のかこちゃん、ごちそうさまをした後に、「おいしかった。明日のごはんは何だろう」とニコニコしながら話をしてくれました。

日々は続いていきます。今日も保育者と共に、子どもたちの傍らにいられることに感謝をして。

園長 齋藤美和

しぜんの国の 村日記

先日、中学生の男の子が園にやってきました。「9年前にここにきていたHです」「暇だったので来ました」春休みで時間があったのかも知れないけれど、ふらりと保育園に来てくれる15歳の男の子。なんて嬉しいことでしょう。美和さんや、当時園長だった紘良さん（今は理事長です）に会うこともでき、園庭で子どもたちとたくさん遊んで帰って行きました。小さな女の子の手を引いて、「懐かしいなあ」と呟きながら、園庭をゆっくりと歩くHくんの姿を見ていたら、園庭のあちこちにいる子どもたち、みんなが大きくなって、また戻ってきてくれるような、ふわふわと夢見心地の気分になりました。

先週、これからランドセルを背負って小学校に行く新1年生の元けやきさんの最終登園のとき。「またね。いつでもまた戻ってきてね」と声をかけました。Hくんのように、ふと、思いついて戻ってこられる場所。戻ってきたら、「よくきたね！」と笑顔でみんなが迎え入れてくれる場所。しぜんの国は、そんな場所でありたいと思います。

新年度を迎えました。新入園の子どもたちは、全てが「新しい」に囲まれて、進級の子どもたちも、新しい出会いに触れて、体が浮きそうになる程、ドキドキ、ふわふわ、ゆらゆら、の時期です。

あなたは何か好きですか？どんな風に過ごしたいですか？私はこんな人です。あなたのことを、もっと知りたいです。保育者が、ゆっくりと一人ひとりの子どもたちと出会っていきます。出会って、知って、わかり合い、かけがえのない存在になっていく。積み重なっていく時間が、今日からまた、始まります。1日と同じ日はありません。ドキドキ、ふわふわの今日もまた、楽しんでいきたいと思えます。

事務所にいるのは、今年もまた、美和さん、マネージャー、事務、そして多くの保育者たちです。困ったことや、話したいこと、何かあれば、この扉を開けてくださいね。子どもたち、保護者の皆さんと共に過ごす時間を楽しみにしています。

（マネージャー 辻徳子）



村の歳時記

～季節のたより・4月～

桜の花びらが綺麗に舞う村の園庭。
「お花見したいね」とつぶやく大人と子ども。
桜を見ながら食べるランチはまた格別ですね。

そういえば、、”お花見”ってどうしてするの？

桜が咲くと春だなあと感じる日本人の心。
ある意味、春のよろこびの象徴とも言えますね。
また、田の神様は春になると山から里におりてきて桜に宿るとされ、
桜の花を稲に見立てて豊作祈願を昔の人たちはしていたようです。
この時期しか見れない葉桜も、楽しみたいです。



保育者 リレー エッセイ

好評につき今年度もリレーが続くことになりました。
先月の潤さんからバトンが渡ったのは、すみれ組担任の大橋光里さんです。

【美術館が好きなひかりさん。今まで見た中で心に残った作品はどんな
ものですか？】

今年度第1号の村だよりにお声がかかり、戸惑いを隠せない私です。じゅんさん、バトンをありがとうございます。

美術館という空間がとにかく大好きで、暇さえあれば休日は朝イチで美術館に行き、ゆっくりじっくり見て周った後、余韻に浸りながら美味しいコーヒーを飲んでいます。この場をお借りして、私が心惹かれた作品(画家)をご紹介したいと思います。私が一番惹かれている作品を描いている画家は「ピーター・ドイグ」というトリニダード・トバコを拠点に活動している現代アーティストです。彼の作品は、目で見てきた景色に幻想やイメージを重ねて描いています。色合いや描き方に温かさや人の柔らかさを感じつつ、どこか不穏な空気も感じ取れる不思議な世界に「なぜこれを描こうと思ったのだろうか」「どういう心情だったのだろうか」と私自身の想像や世界も膨らみ、どんどん引き込まれる感覚がありました。展覧会を二周したのは初めてのことで、その日から彼の生み出す作品の虜になっています。

展覧会へは作品の世界観に自分のペースで感じたい思いから基本的に一人で行くことが多いのですが、見る人によって異なる様々な感じ方や視点を共有したり、また、他の人ならどう感じているのかな...と考えることさえにも面白さと楽しさを感じています。

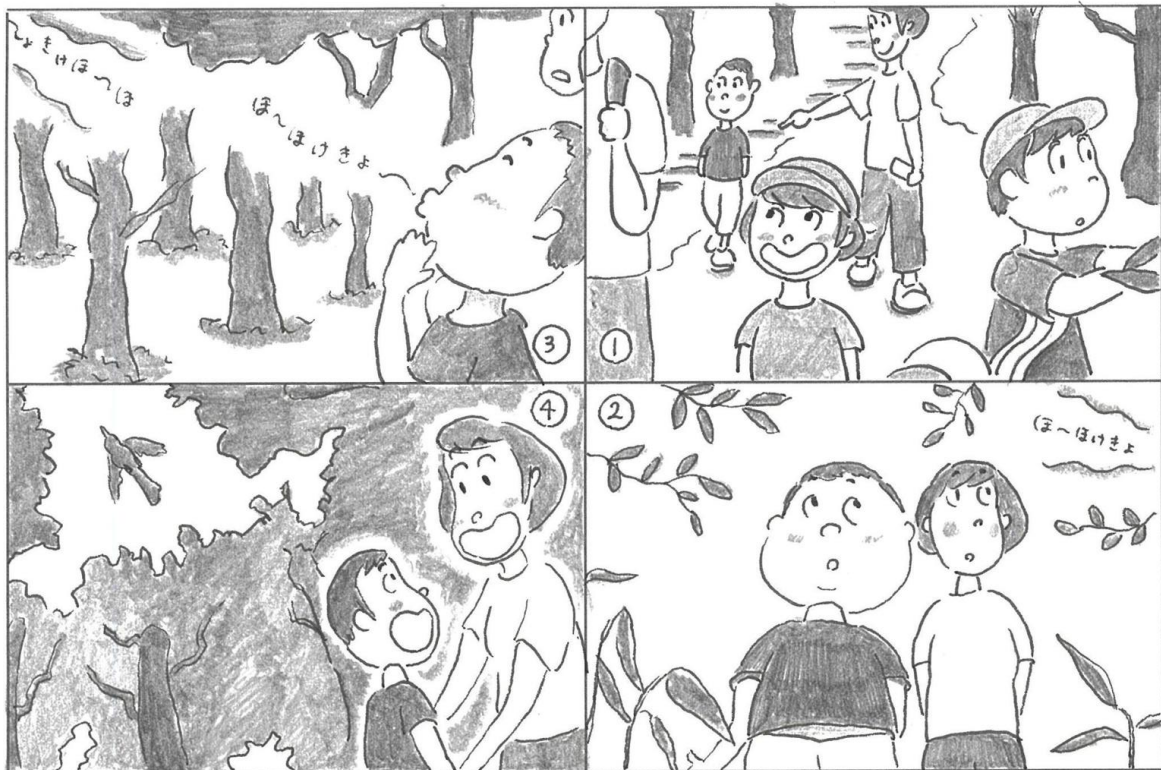
保育園の暮らしの中にも同様に、子どもたちの行動や言葉、作品にはどのような気持ちが込められているのだろう、どんな思いでいるのだろうと常に考えています。ドイグの生み出す絵の世界の様に、人・もの・自然を介してその子ならではの世界や思いを重ね合わせることで生まれる新たな世界を近くで感じられることが嬉しく、幸せを感じます。これからの新たな出会いや環境に少し緊張や不安を感じつつ、とても楽しみです。

次回は・・・次回は、登山部だったとお聞きしたあゆみさん。登山のどんなことに惹かれているのか、自然を通して子どもたちしてみたいことなどあったらぜひ教えて下さい！

かみじまのんびり 漫画劇場

「ほ～ほけきよ」

文・絵 かみじまたるひ



INFO

たるおじさんの紙しばい新作「どうぶつさん」 YouTubeにて公開！

<https://www.youtube.com/watch?v=EUfgsOWI6Y4>